

東証スタンダード市場・福証
証券コード：6998

決算補足説明資料

2024年3月期（2023年度） 第2四半期決算概要

2023年11月9日



2024年3月期（2023年度）第2四半期業績概要

1. 当社のターゲット市場と事業セグメント
2. 今回発表のポイント
3. 連結業績の概要
4. 主な経営指標
5. セグメント別の状況
6. 財務の状況（連結）
7. キャッシュ・フローの状況
8. 剰余金の配当
9. 今後の見通し

TOPICS

1. 株式分割の実施
2. 新製品の開発発表

参考資料

1. 業績の推移（連結）



2024年3月期（2023年度） 第2四半期 業績概要

1. 当社のターゲット市場と事業セグメント

4つのターゲット市場にコア技術を生かした製品群を投入。

ターゲット市場	事業セグメント別の注力製品	
	機械部品事業	電機部品事業
半導体・電子部品市場	 <p>ハードディスクドライブ(HDD) 用磁気ヘッド基板</p> <p>世界 No. 1 シェア(当社調べ)</p>	 <p>プラズマ電極</p>
自動車部品市場	 <p>二軸押出機用部材 「MAZELLOY®」 (コンパウンド混錬機用)</p> <p>新商品</p>	 <p>EVリレー用接点</p>  <p>抵抗溶接用電極 (電装部品溶接用)</p>
産業用機器・部品市場	 <p>産業用設備向け耐摩耗部材 液晶塗付用超硬長尺製品</p>	 <p>ブレーカー用電気接点</p>
衛生用品機器・医療用部品市場	 <p>NTダイカッター</p> <p>国内 No. 1 シェア(当社調べ)</p> <p>世界 No. 2 シェア(当社調べ)</p>	 <p>医療関連カテーテル用 タングステンワイヤー製品</p>

2. 今回発表のポイント

2024年3月期（2023年度）第2四半期決算の総括

・当第2四半期の業績は、前年同四半期比で連結・個別ともに減収減益。

経済環境

- ・世界経済 : 中国経済減速の動向、ロシア・ウクライナ情勢の長期化によるエネルギー価格や原材料の高騰及び世界的な金融引き締め等により、先行きは不透明な状況で推移。
- ・国内経済 : 新型コロナウイルス感染症禍の終息に向け、経済活動は正常化が進む中で、半導体不足の解消による自動車生産やインバウンド需要も回復しながら推移。

ターゲット市場の概況

- ・産業用機器・部品市場 : 顧客の在庫調整や設備投資の先送り等があったものの、第1四半期に納期が集中したことにより、増収。
- ・半導体・電子部品市場 : ここ数年活発であったデータセンター投資の一服に伴い、ハードディスクドライブの在庫調整が想定よりも長期化していることから、大幅な減収。
- ・自動車部品市場 : 半導体不足が解消する中で回復しつつあるものの、一部では在庫調整が継続しており、減収。
- ・衛生用品機器・医療用部品市場 : 前年同四半期を上回ったものの、中国の景気減速の影響等もあり、伸び悩むなかで推移。

2. 今回発表のポイント

今後の見通し

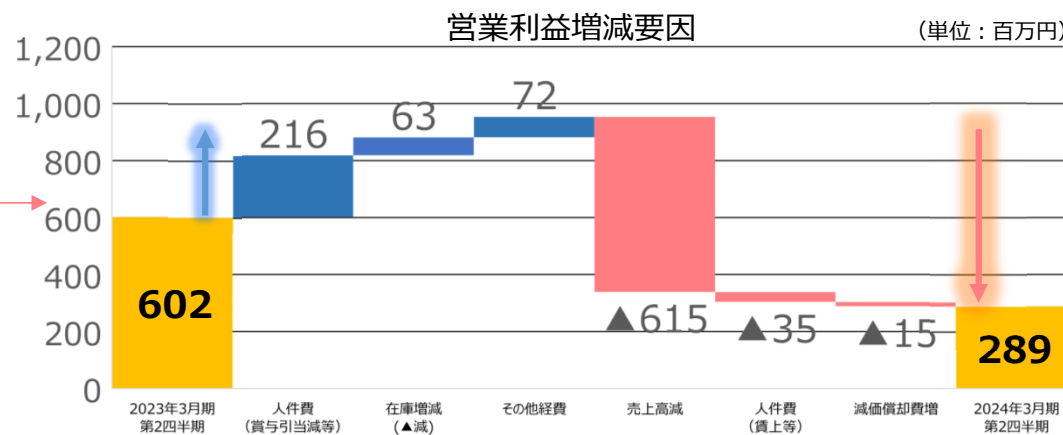
- ・今後の見通し : ・新型コロナウイルス感染症禍からのリバウンド需要による景気押し上げ効果の一巡や中国経済の減速に加え、内需が弱含みであること、さらには、世界的な I T 関連需要の低迷が長期化しており、当社を取り巻く経営環境は厳しい状況が続くと想定される。
 - ・中国経済の減速の影響が想定される。
 - ・半導体・電子部品市場：注力商品であるハードディスクドライブ（HDD）用磁気ヘッド基板が、データセンター等で使用される大容量 HDD のサプライチェーン上での在庫解消に引き続き期間を要すると見込まれる。
積層セラミックコンデンサ（MLCC）製造装置用の部材も、中国でのハイエンドスマートフォン需要の減少により、低迷が続くものと想定される。
 - ・自動車部品市場：自動車生産の回復が進む中で、注力商品である E V リレー用接点は、顧客の在庫調整が長引き回復は緩やかなものと想定される。
 - ・産業用機器・部品市場：産業用設備向けのブレーカー用電気接点は、工場の建設投資が鈍化し需要が減少しており、回復には期間を要すると見込まれる。
 - ・受注環境：当第 3 四半期を底に回復傾向に向かうと想定も、当連結会計年度下期の連結売上高は、上期と同等の水準と見込まれる。
 - ・損益面：個別業績における注力商品の低迷等により、残念ながら下期は営業赤字が見込まれる。
- 今後の取り組み : ・在庫調整等の一時的な需要減に対応すべく、足元の業績回復に向けた経費削減等の施策に加え、成長期待事業への設備投資等による事業ポートフォリオの改善及び海外への販路拡大の諸施策の検討を進める。
 - ・新商品・新規事業創出に向けて、医療における予防・検査、環境衛生分野への展開や、ウイルスの不活化（殺菌）への展開が期待される遠紫外 230nm L E D の開発を進めており、早期の事業化に努める。
- ・業績予想 : 当連結会計年度上期の業績予想値と実績値の乖離の修正も考慮し、2023年 5 月 19 日に公表した業績予想値を連結・個別ともに下方修正する。

株式分割の実施

- ・2024年 1 月 1 日付で、1 株につき 2 株の割合をもって株式分割を実施する。
- ・これに伴い、2024年 3 月期の 1 株当たり配当予想を修正する。（株式分割に伴う修正であり、1 株当たりの配当予想に実質的な変更はなし。）

3. 連結業績の概要

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	(単位：百万円)	
			対前年比 増減額	増減率 (%)
売上高	6,611	5,669	△941	△14.2
営業利益	602	289	△313	△52.0
経常利益	756	457	△298	△39.5
親会社株主に帰属する 四半期純利益	518	361	△156	△30.2



連結売上高	56億6千9百万円 (前年同四半期比14.2%減)	<ul style="list-style-type: none"> 「日本タングステングループ2024中期経営計画」の達成に向けて、事業ROI Cを活用した根本的な生産性改善のノウハウ浸透及び成長期待事業への投資による事業ポートフォリオの改善に取り組む。 喫緊の課題である、新商品・新規事業創出の加速に向けて、サステナビリティも踏まえた新商品創出のためのテーマ分析の高度化及び開発中の商品の早期事業化等に取り組む。 連結売上高は、前年同四半期比14.2%の減収。
営業利益	2億8千9百万円 (同 52.0%減)	<ul style="list-style-type: none"> 海外の連結子会社の業績が、円安効果もあり、好調に推移したものの、当社の個別業績において、各ターゲット市場での注力商品の在庫調整、当期に実施した賃上げに伴う人件費の増加、生産性向上に向けた設備更新による減価償却費の増加等により、前年同四半期比52.0%の減益。
経常利益	4億5千7百万円 (同 39.5%減)	<ul style="list-style-type: none"> 関連会社の持分法による投資利益の増加のほか、サステナビリティの観点から廃棄物の一部を売却に切り替える取り組みを行っているものの、営業利益が大幅な減益であったことから、経常利益も前年同四半期比39.5%の減益。
親会社株主に 帰属する四半期 純利益	3億6千1百万円 (同 30.2%減)	<ul style="list-style-type: none"> 清算中である海外子会社の設備の一部及び投資有価証券の一部を売却し特別利益として計上したものの、経常利益の減少により、親会社株主に帰属する四半期純利益も前年同四半期比30.2%の減益。

3. 連結業績の概要

第2四半期業績予想と実績の差異

・業績予想に対し、連結決算では経常利益が34.6%、親会社株主に帰属する四半期純利益が39.1%上振れとなった一方で、個別決算では営業利益が36.9%下振れしたことから、第2四半期決算発表とあわせて「第2四半期業績予想と実績の差異」について公表する。

①2024年3月期第2四半期（累計）連結業績予想数値と実績値との差異（2023年4月1日～2023年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	5,800	280	340	260	107.51
実績（B）	5,669	289	457	361	149.42
増減額（B - A）	△130	9	117	101	
増減率（%）	△2.3	3.4	34.6	39.1	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2023年3月期第2四半期)	6,611	602	756	518	214.52

差異の理由

2023年5月19日に公表した連結業績予想値と比較し、海外の連結子会社の業績において円安効果による増収要因があったことや、一部の国内の連結子会社が好調だったこともあり、売上高は予想値に至らなかったものの、営業利益が予想値を上回るまで持ち直した。また、経常利益は個別業績での営業外収益の押上げ要因もあったことから、予想値を大きく上回り、当期純利益も特別利益の計上等により予想値を大きく上回る結果となった。

②2024年3月期第2四半期（累計）個別業績予想数値と実績値との差異（2023年4月1日～2023年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	当四半期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	5,200	150	330	250	103.37
実績（B）	4,966	94	387	311	128.70
増減額（B - A）	△233	△55	57	61	
増減率（%）	△4.5	△36.9	17.3	24.6	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2023年3月期第2四半期)	6,114	438	805	616	255.21

差異の理由

2023年5月19日に公表した個別業績予想値と比較し、主に半導体・電子部品市場及び自動車部品市場において、注力商品の販売が振るわなかったことから売上高及び営業利益が予想値を下回る結果となった。一方、経常利益は子会社配当金や為替差益が当初想定を上回り、予想値を上回る結果となった。

4. 主な経営指標

	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期
売上高営業利益率	4.7	△0.2	8.2	9.1	5.1
自己資本四半期純利益率（ROE）	2.7	1.5	4.4	4.8	3.2
総資産経常利益率（ROA）	2.2	0.9	4.0	4.6	2.7
1株当たり四半期純利益	109.86	61.60	184.37	214.52	149.42

← コロナ禍以前

- 売上高営業利益率は、5.1%となり、2020年3月期第2四半期並みとなった。
- 自己資本四半期純利益率（ROE）は3.2%となった。
- 総資産経常利益率（ROA）は2.7%となった。
- 1株当たり四半期純利益は149円42銭となった。

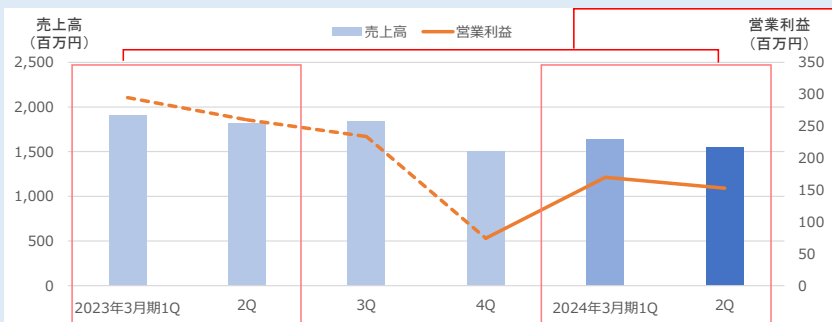
5. セグメント別の状況

■ セグメント業績の概要

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	対前年比	
			増減額	増減率 (%)
機械部品事業				
売上高	3,723	3,195	△527	△14.2
営業利益	554	322	△232	△41.9
電機部品事業				
売上高	2,894	2,492	△402	△13.9
営業利益	305	251	△54	△17.9
調整額				
売上高	△6	△18	△12	-
営業利益	△257	△284	△26	-
全社				
売上高	6,611	5,669	△941	△14.2
営業利益	602	289	△313	△52.0

機械部品事業、電機部品事業ともに
対前年同四半期比で減収減益
となった。

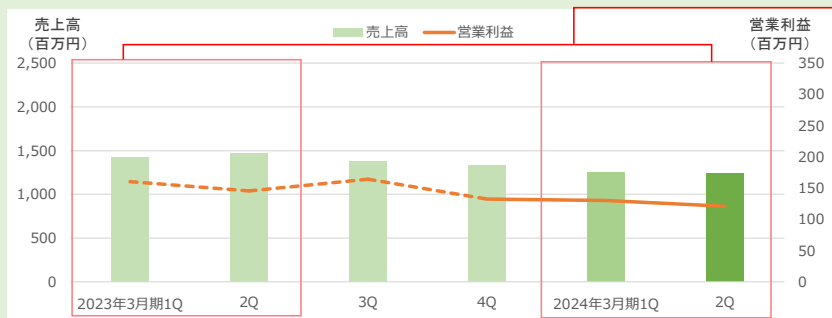
機械部品事業					2024年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	1,908	1,814	1,838	1,504	1,644	1,551
営業利益	294	259	233	74	169	152



	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期
売上構成比	56.3%	56.2%
営業利益率	14.9%	10.1%

- 【売上高】**
- ・対前年同四半期比では、14.2%の減収となった。
 - ・四半期推移では、注力商品の低迷から15億円台で推移した。
- 【営業利益】**
- ・対前年同四半期比で41.9%の減益となった。
 - ・四半期推移では、注力商品の低迷から利益率も低下しており、約10%で推移した。

電機部品事業	2023年3月期				2024年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	1,425	1,468	1,380	1,334	1,250	1,241
営業利益	160	145	164	132	130	121

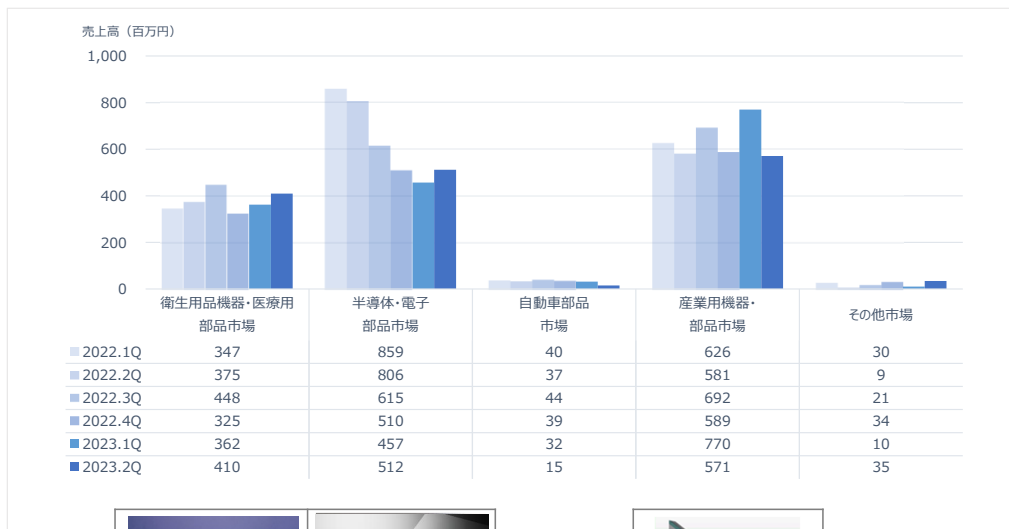


	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期
売上構成比	43.7%	43.8%
営業利益率	10.6%	10.1%

- 【売上高】**
- ・対前年同四半期比では、13.9%の減収となった。
 - ・四半期推移では、一部で在庫調整の影響もあり、12億円台が続いた。
- 【営業利益】**
- ・対前年同四半期比で17.9%の減益となった。
 - ・四半期推移では、売上高の減少に伴い、利益額も低下した。

5. セグメント別の状況

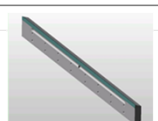
■ ターゲット市場別業績・主要商品の状況



NTダイカッター



HDD用
磁気ヘッド
基板



超硬長尺
製品
・二軸混練
押出機用の
金属部品

※売上高はセグメント間の取引を含んでおりません。

ターゲット市場の主要な商品の状況 (前年同四半期比)

【産業用機器・部品市場】

塗付工具用として使用される超硬長尺製品

二次電池製造用途での安価品への置き換えが進んでいることや、液晶ディスプレイ製造用途においても、需要の周期の谷間を迎えており、減収となった。

二軸混練押出機用の金属部品

前連結会計年度が特需だったことや、納期が当連結会計年度下期に集中していることもあり、減収となった。

その他の産業用装置において、第1四半期に納期が集中したこともあり、当市場としては増収となった。

【半導体・電子部品市場】

情報関連機器のハードディスクドライブ (HDD) 用磁気ヘッド基板

データセンター等で使用される大容量HDDについて、サプライチェーン上での在庫過多が解消に至っておらず、大幅な減収となった。

【衛生用品機器・医療用部品市場】

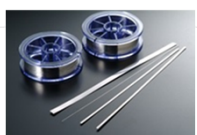
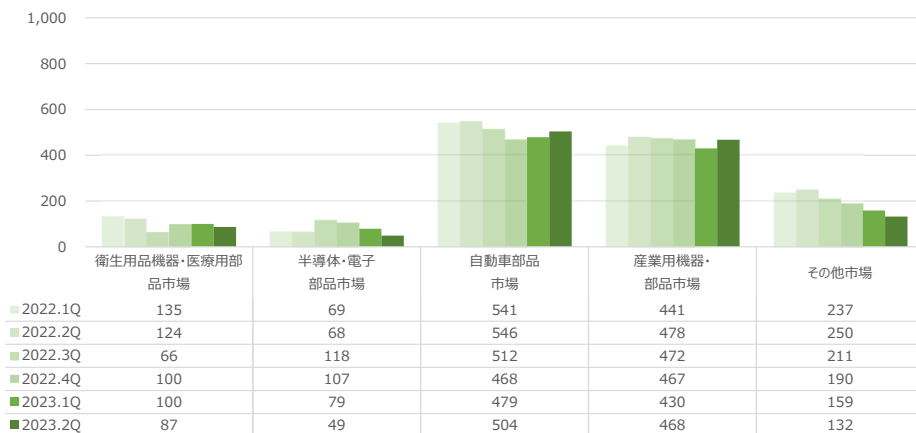
NTダイカッター

前年同四半期と比較して増収となったものの、中国市場での需要が減速するなど、伸び悩む中で推移し、若干の増収となった。

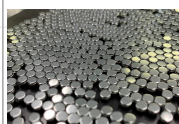
5. セグメント別の状況

電機部品事業

売上高（百万円）



医療関連
カテーテル用
タングステン
ワイヤー製品



EVリレー
用接点



抵抗溶接
電極



ブレーカー用
電気接点

ターゲット市場の主要な商品の状況（前年同四半期比）

【自動車部品市場】

EVリレー用接点

在庫調整の継続や顧客の稼働調整等もあり、減収となった。

電装部品溶接用の抵抗溶接用電極

半導体不足の解消に伴い自動車生産が回復傾向にあることから、増収となった。

【産業用機器・部品市場】

産業用設備向けのブレーカー用電気接点

一時的な受注の回復がみられるものの、顧客の在庫積み増しによる調整が継続しており、減収となった。

【衛生用品機器・医療用部品市場】

医療関連部材のカテーテル用タングステンワイヤー製品

東南アジア地域での需要回復の遅れの影響があり、減収となった。

※売上高はセグメント間の取引を含んでおりません。

6. 財務の状況（連結）

	2023年3月期	2024年3月期 第2四半期	(単位：百万円) 対前年比 増減額
総資産	16,807	17,239	432
負債	5,556	5,491	△64
純資産	11,251	11,748	496

主な経営指標

	2023年3月期	2024年3月期 第2四半期
自己資本比率（%）	66.9	68.1
1株当たり純資産（円）	4,648.25	4,846.52

	主な増加要因 (単位：百万円)	主な減少要因 (単位：百万円)
総資産 172億3千9百万円 (前連結会計年度末比4億3千2百万円増)	売上債権 +345 有形固定資産 +322	現金及び預金 △452
負債 54億9千1百万円 (同6千4百万円減)	流動負債その他 (設備関係債務) +250 繰延税金負債 +99	仕入債務 △258 設備関係未払金 △112
純資産 117億4千8百万円 (同4億9千6百万円増)	利益剰余金 +216 その他有価証券評価差額金 +149 為替換算調整勘定 +114	-

7. キャッシュ・フローの状況

	(単位：百万円)		
	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	対前年比 増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	493	43	△450 (収入減)
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 150	△ 381	△231 (支出増)
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 182	△ 162	19 (支出減)
現金及び現金同等物に係る換算差額	25	44	18
現金及び現金同等物の期末残高	4,097	4,056	△41

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動により獲得した資金 4千3百万円 (前年同四半期比 4億5千万円の収入減)
 ▶ 主に、法人税等の支払額が減少したものの、仕入債務及び税金等調整前当期純利益が減少したことによる

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動により支出した資金 3億8千1百万円 (同 2億3千1百万円の支出増)
 ▶ 主に、有形固定資産の取得による支出が増加したことによる

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動により支出した資金 1億6千2百万円 (同 1千9百万円の支出減)
 ▶ 主に、前々連結会計年度に係る期末配当金1株当たり70円には、記念配当金1株当たり10円を含んでいたこと及び前連結会計年度に係る期末配当金が1株当たり60円であったことから、支出が減少したことによる

8. 剰余金の配当

剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は株主の皆様への利益還元について、新製品開発を推進するための設備・人財・研究などへの戦略的投資、中長期的な企業財務体質の強化等を総合的に勘案しつつ、原則として、年間の1株あたり配当額100円を下限として、親会社株主に帰属する当期純利益の30%を目安とした安定的・継続的な配当を実施するよう努めます。

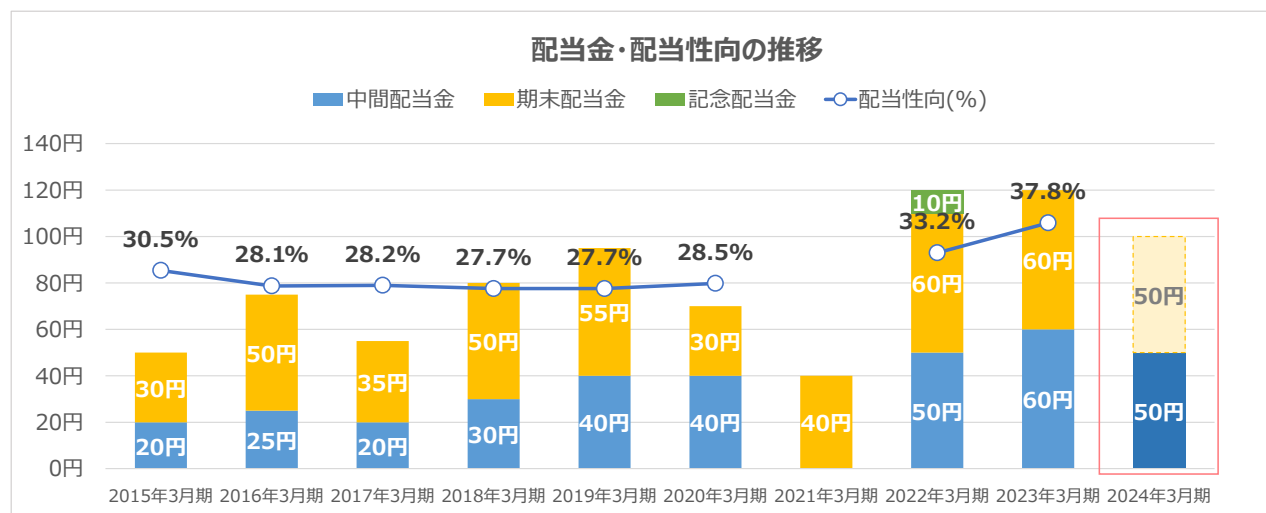
また、1株当たりの株主価値を向上させるとともに、資本効率の向上を図るため、適宜自己株式の取得に努めます。

なお、著しい経営環境の変化などの特殊要因により、親会社株主に帰属する当期純利益が大きく変動する場合は、配当金の見直しを検討するものとします。

剰余金の配当（中間）

当期の中間配当金は、配当方針を勘案した上で、2023年5月19日に公表した中間配当金予想のとおり、**中間配当金 1株当たり50円**とする。なお、中間配当金の支払開始日は2023年12月6日とする。

基準日	2023年9月30日
1株あたり配当金	50円00銭
配当金総額	1億2千1百万円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2023年12月6日
配当原資	利益剰余金



- (注) 1. 2021年3月期は、当期純損失のため配当性向は該当ありません。
2. 2024年3月期の期末配当予想額50円は株式分割前の金額であります。株式分割後の期末配当予想額は25円となります。

9. 今後の見通し

経済環境の見通し

- ・新型コロナウイルス感染症禍からのリバウンド需要による景気押し上げ効果の一巡や中国経済の減速に加え、内需が弱含みであること、さらには、世界的な I T 関連需要の低迷が長期化しており、当社を取り巻く経営環境は厳しい状況が続くと想定される。

当社グループの見通し

- ・中国経済の減速の影響が想定される。
- ・半導体・電子部品市場 : 注力商品であるハードディスクドライブ (HDD) 用磁気ヘッド基板が、データセンター等で使用される大容量 HDD のサプライチェーン上での在庫解消に引き続き期間を要すると見込まれる。
積層セラミックコンデンサ (MLCC) 製造装置用の部材も、中国でのハイエンドスマートフォン需要の減少により、低迷が続くものと想定される。
- ・自動車部品市場 : 自動車生産の回復が進む中で、注力商品である E V リレー用接点は、顧客の在庫調整が長引き回復は緩やかなものと想定される。
- ・産業用機器・部品市場 : 産業用設備向けのブレーカー用電気接点は、工場の建設投資が鈍化し需要が減少しており、回復には期間を要すると見込まれる。
- ・受注環境 : 当第 3 四半期を底に回復傾向に向かうと想定も、当連結会計年度下期の連結売上高は、上期と同等の水準と見込まれる。
- ・損益面 : 個別業績における注力商品の低迷等により、残念ながら下期は営業赤字が見込まれる。

今後の取り組み

- ・在庫調整等の一時的な需要減に対応すべく、足元の業績回復に向けた経費削減等の施策に加え、成長期待事業への設備投資等による事業ポートフォリオの改善及び海外への販路拡大の諸施策の検討を進める。
- ・新商品・新規事業創出に向けて、医療における予防・検査、環境衛生分野への展開や、ウイルスの不活化 (殺菌) への展開が期待される遠紫外 230nm LED の開発を進めており、早期の事業化に努める。

9. 今後の見通し

2024年3月期の通期業績予想

・当連結会計年度上期の業績予想値と実績値の乖離の修正も考慮し2023年5月19日に公表した業績予想値を連結・個別ともに下方修正する。

修正後の2024年3月期業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期連結業績予想	11,000	△13.0	220	△76.3	490	△60.1	350	△54.4	72.36
通期個別業績予想	9,800	△15.1	△110	—	290	△74.0	310	△58.2	64.09

- （注） 1. 2024年1月1日に普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行うことが予定されており、今回修正予想の1株当たり当期純利益は、当該株式分割を反映した期中平均株式数を基に算定。
2. 業績予想修正後の予想配当性向は68.6%



TOPICS

1. 株式分割の実施

株式分割の目的と内容

- ・当社株式の投資単位あたりの金額を引き下げ ⇒ 株式の流動性向上・投資家層の拡大を図る
- ・新しいNISA制度の導入を踏まえた、個人投資家の投資環境の整備

分割比率

1 : 2

分割基準日：2023年12月31日（日）

効力発生日：2024年 1月 1日（月）

例）株式分割前に当社株式を100株保有している場合（株価2,500円）

分割前に所有していた100株が
100株 25万円

株式分割後

2倍の200株となります。
200株 25万円

定款の変更

- ・定款第6条（発行可能株式総数）
⇒発行可能株式総数を、1千万株から2千万株に変更する。

配当方針の変更

- ・配当方針について、年間の1株当たり配当金額の下限設定を100円から50円に変更する。

2024年3月期の期末配当予想の修正

- ・株式分割に伴い、2024年3月期の1株当たり配当予想額を50円から25円に修正。

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年3月期	円 銭 -	円 銭 60.00	円 銭 -	円 銭 60.00	円 銭 120.00
2024年3月期	-	50.00			
2024年3月期 (予想)			-	25.00	-

(株式分割前換算で50.00円)

2. 新製品の開発発表

新たに開発発表した製品

230nmの波長域の
遠紫外LED光源
(図1)

遠紫外LED光源を集積化した
高出力光源モジュール
(図2)

- ・当社と国立研究開発法人理化学研究所 平山秀樹主任研究員（平山量子光素子研究室）との共同開発による。
- ・波長230nm LED開発は、最先端の研究成果の一つで、特許を取得した。

使用される分野・用途例

- ・医療における予防・検査、環境衛生分野への展開が期待
- ・ウイルスの不活化（殺菌）等への用途展開

学会での発表

- ・ヒルトン福岡シーホークで開催（11/12～17）される国際学会「ICNS14」で本製品を発表予定

製品紹介（当社HPトップページ TOPICSに掲載） <https://www.nittan.co.jp/>

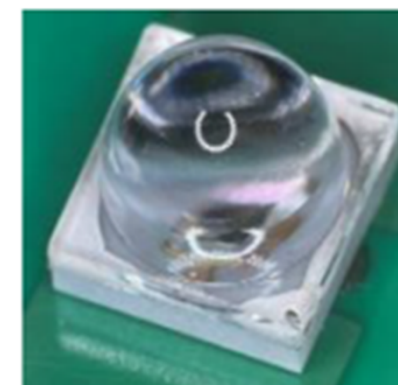


図1 230nmの波長域の遠紫外LED光源

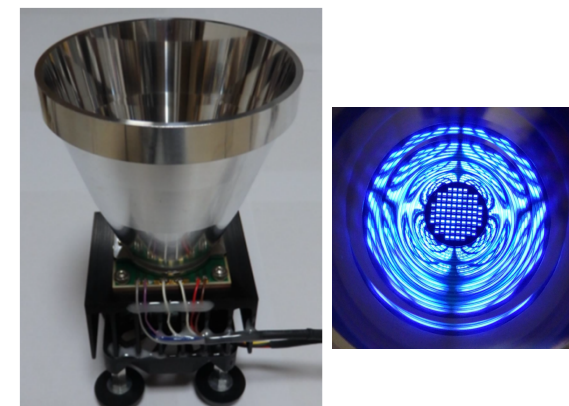


図2 遠紫外LED光源を集積化した高出力光源モジュール

14th International
Conference on
Nitride Semiconductors
(ICNS-14)



November 12-17, 2023

Hilton Fukuoka Sea Hawk,
Fukuoka, Japan



参考資料

1. 業績の推移（連結）

経営成績（連結）

(単位：百万円)

区分	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期
売上高	5,711	4,705	5,865	6,611	5,669
営業利益	267	△7	483	602	289
経常利益	351	136	619	756	457
親会社株主に帰属する四半期純利益	267	148	444	518	361
純資産	10,119	10,006	10,357	11,226	11,748
総資産	16,254	15,182	15,629	16,953	17,239

経営指標（連結）

区分	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期
売上高営業利益率 (%)	4.7	△ 0.2	8.2	9.1	5.1
自己資本当期純利益率 (ROE) (%)	2.7	1.5	4.4	4.8	3.2
自己資本比率 (%)	62.2	65.8	66.2	66.2	68.1
1株当たり純資産 (BPS) (円)	4,142.58	4,149.77	4,289.84	4,637.61	4,846.52
1株当たり当期純利益 (EPS) (円)	109.86	61.60	184.37	214.52	149.42
総資産経常利益率 (ROA) (%)	2.2	0.9	4.0	4.6	2.7

本資料は情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

また、掲載されている情報は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。

従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。当社の内部要因や当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おきください。

投資に関する最終的な決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。